

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

6 年 6 月 21 日

神戸市長 宛

提出者

住所 東京都中野区中野4-10-2 中野セント

氏名 麒麟麦酒株式会社
代表取締役社長 堀口 英樹

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 03 (6837) 7002

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	69J0501040 麒麟麦酒株式会社 神戸工場
--------	--------------------------

事業場の所在地	兵庫県神戸市北区赤松台2-1-1
---------	------------------

計画期間	令和6年4月1日から令和7年3月31日
------	---------------------

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	1022 ビール類製造業
--------	--------------

②事業の規模	昨年度 製品出荷額
--------	-----------

③従業員数	113人（令和6年4月時点）
-------	----------------

④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙「図2 廃棄物処理フロー」のとおり
-----------------	---------------------

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項	
(管理体制図)	
別紙「図3 管理体制図」のとおり	

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組) 排水脱水汚泥の削減。 他の廃棄物等の分別を徹底し有価物化できるものを増やす、 並びに再生紙原料化できる古紙の回収・再資源化の徹底を継続し、 廃棄物発生量の削減。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 排水脱水汚泥の削減。 他の廃棄物等の分別を徹底し有価物化できるものを増やす、 並びに再生紙原料化できる古紙の回収・再資源化の徹底を継続し、 廃棄物発生量の削減。		

産業廃棄物の分別に関する事項	
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃棄物等分別所の改造による分別の簡易化を図る。 日々の廃棄物等集積場所での分別状況確認を継続する。 また、場内従業員全員対象に、分別の徹底を教育している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 日々の廃棄物等集積場所での分別状況確認を継続する。 また、場内従業員全員対象に、継続的に分別の徹底をして行く。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組） 仕込粕（有価物）は、脱水や乾燥を実施し、飼料として再生利用している。 廃棄酵母（有価物）は静沈させて出た沈殿物を脱水や乾燥処理をし、食品用原料として再生利用している		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組） 引き続き、仕込粕（有価物）は脱水や乾燥を実施し飼料として再生利用し、廃棄酵母（有価物）は静沈させて出た沈殿物を脱水や乾燥処理をし、食品用原料として再生利用して行く。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	別紙のとおり t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
（これまでに実施した取組） 廃棄珪藻土、排水処理場から出る汚泥は脱水処理し、汚泥として処理業者に搬出されている。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	別紙のとおり t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
（今後実施する予定の取組） 引き続き、廃棄珪藻土、排水処理場から出る汚泥は脱水処理し、汚泥として処理業者に搬出して行く。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	別紙のとおり t	t
	(これまでに実施した取組) 産業廃棄物は「ゼロエミッション化」をしており、埋立・海洋投入処分はしていない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	別紙のとおり t	t
	(今後実施する予定の取組) 産業廃棄物は「ゼロエミッション化」をしており、埋立・海洋投入処分はしていない。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	別紙のとおり t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
(これまでに実施した取組) 排水汚泥はセメント原料・肥料原料・バイオマス燃料・建設材料として、廃プラスチックはプラスチック原料や建設材料、RPFとして、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずはセメント原料として、廃油は化石燃料の代替燃料化として、木くずは製紙用燃料チップとして再利用し、排出廃棄物のリサイクルを推進している。			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	別紙のとおり t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 排水汚泥はセメント原料・肥料原料・バイオマス燃料・建設材料として、廃プラスチックはプラスチック原料や建設材料、RPFとして、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずはセメント原料として、廃油は化石燃料の代替燃料化として、木くずは製紙用燃料チップとして再利用し、排出廃棄物のリサイクルを推進していく。		

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

図1 ビール製造工程

神戸工場に於けるビール製造工程の概要を示す、枠内には工程名を、枠外には関連する主要設備名を記す。

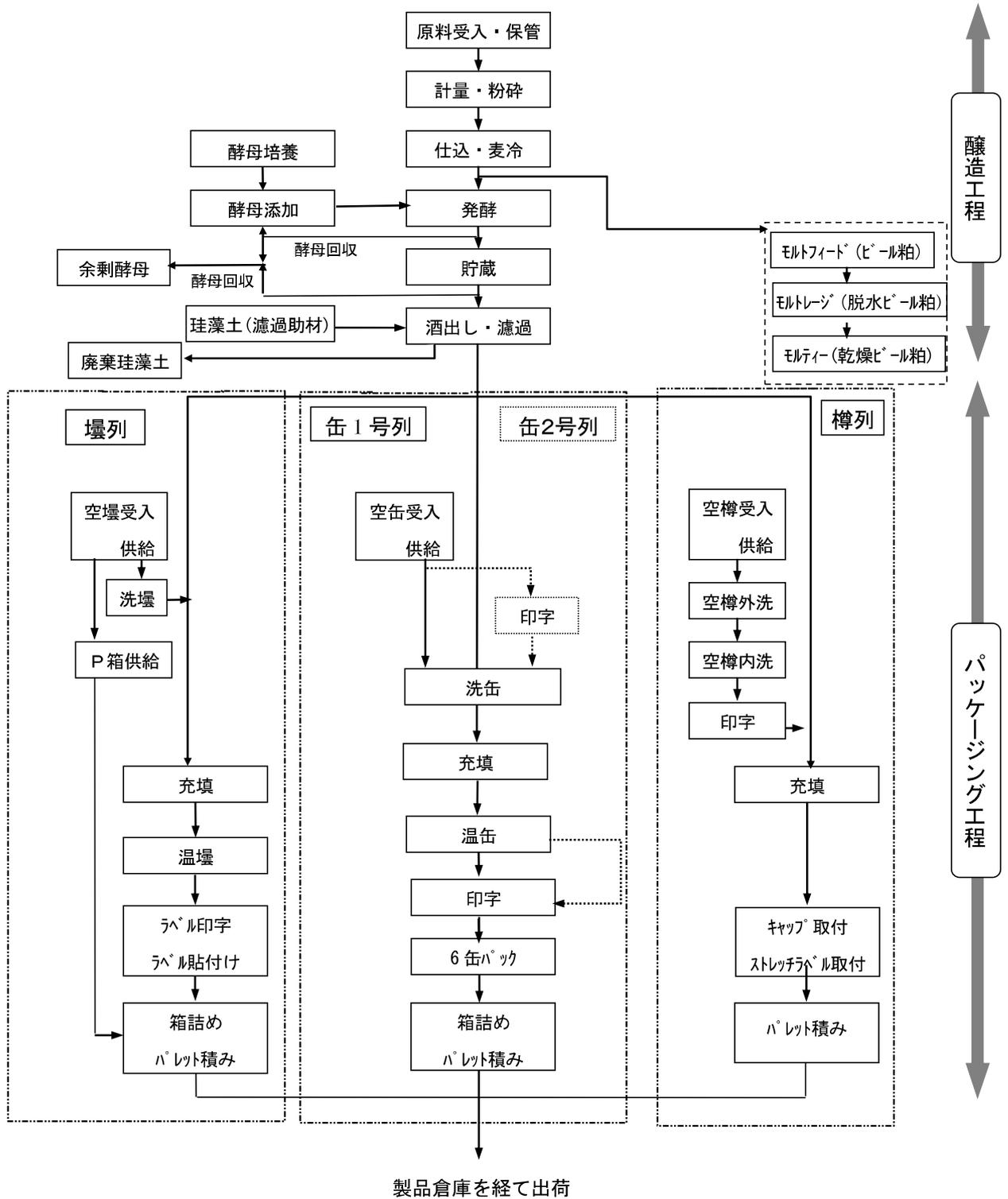
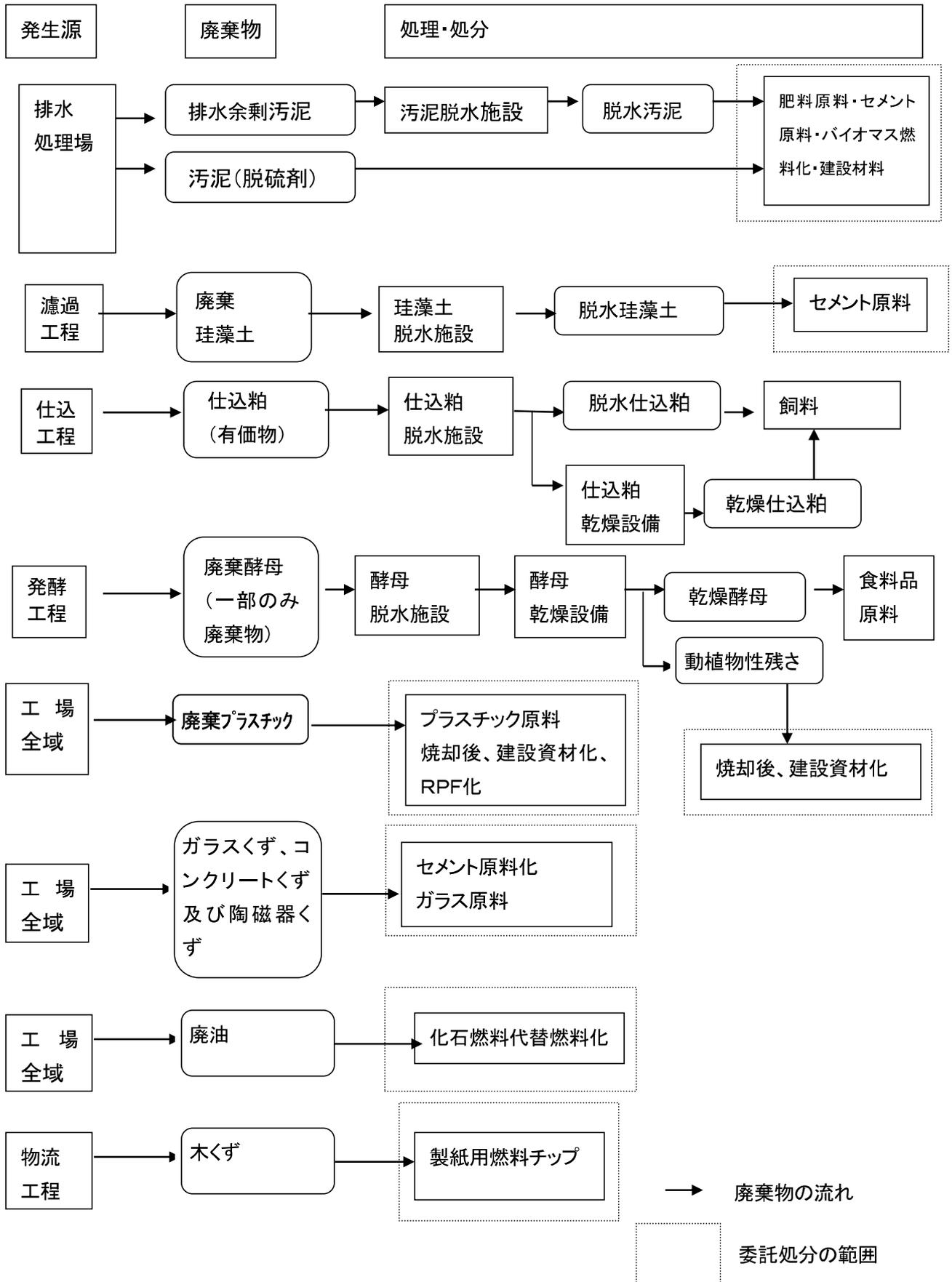
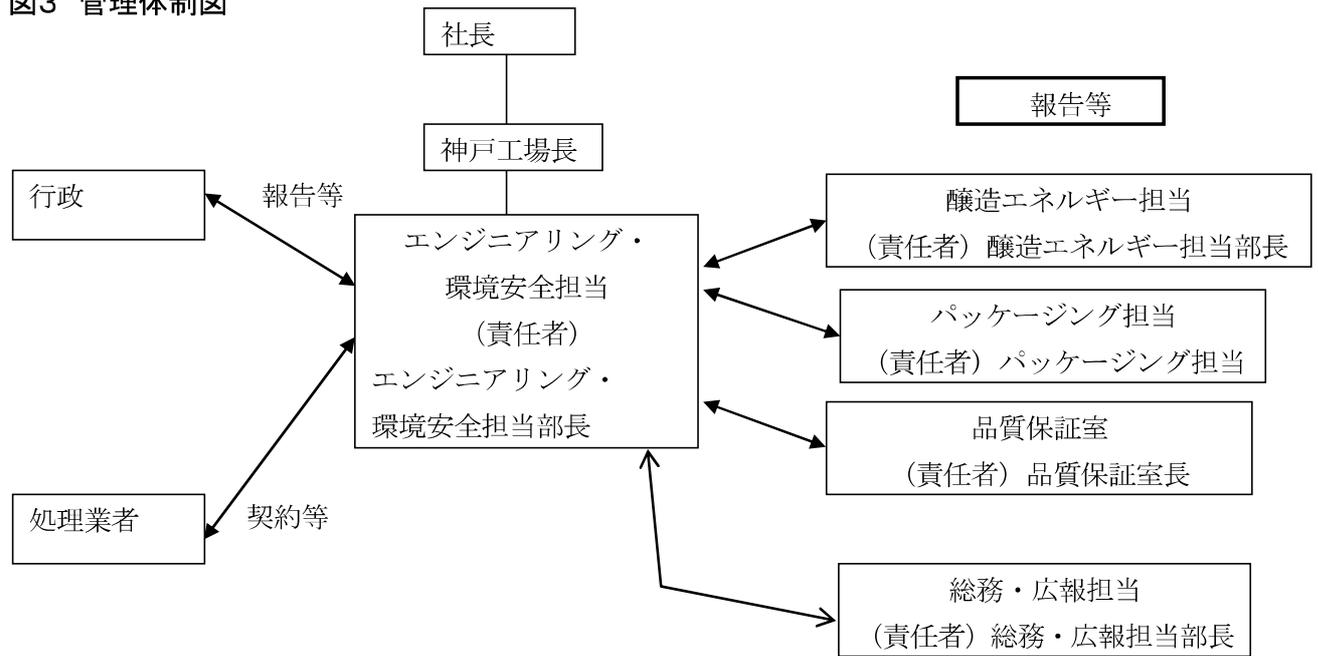


図2 廃棄物処理フロー



- 汚泥(排水汚泥)
 - 収集運搬→乾燥・焼却→セメント原料
 - 収集運搬→焼却→建設材料
 - 収集運搬→堆肥化→肥料原料
 - 収集運搬→乾燥→バイオマス燃料
- 汚泥(脱硫剤)
 - 収集運搬→中和・脱水→景観回復覆土
- 汚泥(廃棄珪藻土)
 - 収集運搬→焼却→セメント原料
- 廃棄プラスチック
 - 収集運搬→破碎→減容固化→RPF燃料
 - 収集運搬→破碎→プラスチック原料
 - 収集運搬→焼却→建設材料
- ガラスくず
 - 収集運搬→破碎→セメント原料
- 廃油
 - 収集運搬→化石燃料代替燃料化
- 木くず
 - 収集運搬→破碎→製紙用燃料チップ
- 動植物性残渣
 - 収集運搬→肥料化
 - 収集運搬→焼却→建設材料

図3 管理体制図



* 分担

エンジニアリング・環境安全担当

- ・ 工場内のマテリアルフローの把握、統合的な廃棄物減量計画の立案
- ・ 工場内の廃棄物処理計画等の策定、部署間の調整、行政への報告
- ・ 処理委託業者の選定、廃棄物処理委託契約等手続き、引渡し、適正処理の確認
- ・ 工場内の他部署への関係法令等の教育、啓発、指導監督

醸造エネルギー担当、パッケージング担当、品質保証室、総務広報担当

- ・ 部署内の発生産業廃棄物の発生量削減、分別。
- ・ 部署内メンバーへの分別方法等の徹底

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

○現状 前年度(令和5年度)実績

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	0300 廃油	0600 廃棄プラスチック	1300 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	0800 木くず	1000 動植物性残さ	2200 管理型混合廃棄物
排出量	21,559t	6t	140t	3t	26t	3,282t	4t

○計画 目標

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	0300 廃油	0600 廃棄プラスチック	1300 1300 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	0800 木くず	1000 動植物性残さ	2200 管理型混合廃棄物
排出量	21,343.t	6t	138t	3t	25t	3250t	4t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

○現状 前年度(令和5年度)実績

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	0300 廃油	0600 廃棄プラスチック	1300 ガラスくず	0800 木くず	1000 動植物性残さ	2200 管理型混合廃棄物
自ら再生利用を行った量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t

○計画 目標

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	0300 廃油	0600 廃棄プラスチック	1300 ガラスくず	0800 木くず	1000 動植物性残さ	2200 管理型混合廃棄物
自ら再生利用を行った量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

○現状 前年度(令和5年度)実績

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	0300 廃油	0600 廃棄プラスチック	1300 ガラスくず	0800 木くず	1000 動植物性残さ	2200 管理型混合廃棄物
自ら熱回収を行った量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
自ら中間処理により減量した量	19,341t	0	0t	0t	0t	3,225t	0t

○計画 目標

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	0300 廃油	0600 廃棄プラスチック	1300 ガラスくず	0800 木くず	1000 動植物性残さ	2200 管理型混合廃棄物
自ら熱回収を行った量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
自ら中間処理により減量した量	19,147.t	0t	0t	0t	0t	3,269t	0t

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

○現状 前年度(令和5年度)実績

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	0300 廃油	0600 廃棄プラスチック	1300 ガラスくず	0800 木くず	1000 動植物性残さ	2200 管理型混合廃棄物
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t

○計画 目標

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	0300 廃油	0600 廃棄プラスチック	1300 ガラスくず	0800 木くず	1000 動植物性残さ	2200 管理型混合廃棄物
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

○現状 前年度(令和5年実績)

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	0300 廃油	0600 廃棄プラスチック	1300 ガラスくず	0800 木くず	1000 動植物性残さ	2200 管理型混合廃棄物
全処理委託量	2,218t	6t	140t	3t	26t	57t	4t
優良認定処理事業者への処理委託量	2,218t	6t	140t	3t	26t	57t	4t
再生利用業者への処理委託量	2,218t	6t	140t	3t	0t	57t	0t
認定熱回収業者への処理委託量	15t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	62t	0t	30t	0t	0t	57t	4t

○計画 目標

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	0300 廃油	0600 廃棄プラスチック	1300 ガラスくず	0800 木くず	1000 動植物性残さ	2200 管理型混合廃棄物
全処理委託量	2,193.t	6t	480t	3t	25t	56t	4t
優良認定処理事業者への処理委託量	2,193.t	6t	480t	3t	25t	56t	4t
再生利用業者への処理委託量	2,193.t	6t	0t	3t	0t	0t	0t
認定熱回収業者への処理委託量	76t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0t	0t	0.8t	0t	0t	57t	4t